

## 事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 5 年 3 月 8 日

公表:令和 5 年 3 月 13日

事業所名 児童発達支援事業ほっと

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		あらかじめ人数の確認をしている	人数が多いときに工夫するなどしていく
	2	職員の配置数は適切である	○			定員のことも含めて丁寧に利用者にお伝えするようにする
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			利用する子どもたちが文字などがわからなくても自分のものがわかるように構造化などは取り入れている。個々の状況に応じた工夫を今後も進めていきたい
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			常日頃から清掃など環境整備に努めている
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		行った行事などHPで伝えている	HPで公表している。公表していることをお知らせするように努める
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		予算に見通しがつけば外部評価も検討する
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			近隣の事業所との交流会や研修会に参加している
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			スタッフもガイドラインを見つめなおし現状の支援内容との整合性を確認していく
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		ミーティングで検討している	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝のミーティングを行っている	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終了時のミーティングも行っている	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録を取り次回からの活動に活かしている	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○				

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		相談職員が見に来たりやり取りは行っている	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			療育等支援事業などを活用し関係機関とリンクした活動を行っている
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			対象者がいない	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			対象者がいない	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている			対象者がいない	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		利用者の状況やニーズを見た上で交流の機会を検討していきたい
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		今後、積極的に参加できるようにしていく
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			できる限りの保護者とのやりとりは行ってきた
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		個別で行ってきた	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明している	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		同意を得ている	保護者との面談の機会を増やすなどして計画の共有化を図りたい
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			普段の療育でも行っているが個別での対応も増やすなど検討していきたい
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		父母の会はないが保護者同士での話し合いの場を提供している	今後も保護者同士の集まりが行えるようにしていく
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月おたよりを発行した	今後も継続して発信していく
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			個人情報への配慮からHPなどより会報での発信としている
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○		マニュアル等をスタッフで共有し保護者にも周知できるようにしていく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○		今後はサービス時の訓練を行うように時間を検討していく
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			状況を把握して対応していく
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	対象者がいない	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している				
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		○	虐待等はない	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○	身体拘束はしない	親子での支援のためそういう場面がない

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。